



真心込めたサービスを
大黒グランドホテル
 鹿屋市共栄町市役所前 ☎(0994) 44-5511

お弁当届け高齢者ら見守り

「おいしいね」の言葉励みに

鹿屋市給食サービスセンター
 ひとり暮らしの高齢者らに給食を宅配する鹿屋市給食サービスセンターが、宅配とともに見守り活動も行っている。給食の配達時にお年寄りが見えたり、動けなくなったりしているのを発見し、入院に繋がったケースも。お弁当を届けるだけでなく、お年寄りらを陰で支える重要な存在となっている。

倒れているのを発見入院も

給食サービスセンターは社会福祉法人・恵仁会が鹿屋市の委託を受け、旧鹿屋市地区の65歳以上の独り暮らしの高齢者や身体、知覚の障害がある約330人に1日2食(昼食・夕食)を配食。26人の職員が

12台のワゴン車で日曜日を除いて毎日届けている。「温かい状態で食べてほしい」とご飯とみそ汁は保温弁当箱に入れ、おかずはそのままだにレンジで温められる容器を使用。独り暮らしで利用している人が多いため、貴重な話し相手にもなっている。市中心部から遠い集落ほど丸一日誰も口を聞いていない場合が多く、話し始めると止まらぬ人や、針に糸を通してもらおうと準備しているお婆ちゃんもいるそう。



「敬老の日」の特別メニューを盛りつける職員ら＝鹿屋市給食サービスセンター

確認するようにしているが、ベッドに挟まって動けなくなっていたり、低血糖で倒れているのを発見することもあり、早期発見により大事に至らなかったケースが少なくないという。利用者のうち85歳以上が110人となり全体の34%、90歳以上が55

人と17%を占め、年齢的にいつ何が起きてもおかしくない。配食時にお年寄りから心臓停止状態に倒れているのを発見し、119番通報したケースもあった。ただ、職員たちは医療や介護の専門家ではないため、利用者が倒れている場合に遭遇し精神的に大きなショックを受けられるのも事実。時には利用者から認知症の症状である「物盗られ妄想」が出てしまったり、盗盗の疑いを掛けられ、心に深い傷を負うこともある。疑われた場合は本人やその家族に警察へ被害届けを出すよう進言し、引き続き安否確認のために家まで上がって良いかどうかを判断してもらっている。落ち込んでいる職員は職場の仲間同士励まし合っている。辛いことも乗り越えているが、お年寄りに頼りにされたり、感謝されたりすることが一番の励みになっている。

お弁当から季節を感じてもらおうと行事食も取り入れており、お彼岸にはおはぎ、クリスマスにはケーキを添えるなどし、17日には「敬老の日」に合わせ松茸の炊き込みご飯や鯛の頭付きといった豪華メニューが用意された。同センター管理者の坂口涼子さんは「孤独死を避けるためにも安否確認や健康状態の把握は必要。独居のお年寄りは会話を楽しみにお弁当を待つておられ、お弁当が待たない間に耳を傾けながら温かいお弁当を笑顔で渡したい」と話している。

車椅子7台を鹿屋市に贈呈

かのや大黒グランドホテル取引業者会

市内の社会福祉施設に配布

鹿屋市のかのや大黒グランドホテル取引業者でつくる「かのや大黒グランドホテル取引業者会」(中西誠一会長・68歳)の役員4人が18日、鹿屋市役所を訪れ、嶋田芳博市長に車椅子を寄贈した。同協力会では社会貢献活動の一環として



市役所ロビーで贈呈の車椅子を前に嶋田市長と記念写真に収まる中西会長ら

「一体の不自由な方向にお役に立ててほしい」と新式車椅子7台を寄贈した。嶋田市長が「大変ありがとうございますことと感謝を述べ中西会長とがっちり握手。徳留部長が「市内の社会福祉施設に配布して有効に活用していただきませう」とお礼を述べた。中西会長らは「これからも会員らと相談しながら、できる限り地域への貢献を続けていきたい」と話した。

イベント情報
 街の情報は
 info@nankyuu.com
 にお寄せ下さい

平成24年 秋の全国交通安全運動

実施期間：9月21日(金)～9月30日(日)

『子どもと高齢者の交通事故防止』

- シートベルトの着用推進
- 飲酒運転の根絶
- ライト点灯の実施
- 横断歩道での歩行者保護義務

安全・安心・信用がモットーの貸切バス

高山観光バス

高山本社 ☎(0994) 65-0003

溝辺支社 ☎(0995) 58-4711

平成24年 秋の全国交通安全運動

運動の重点

1. 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
2. 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
3. 飲酒運転の根絶